**2020年10月改訂（第３版）
*2019年2月改訂
医療機器認証番号：15700BZZ00639000

機械器具　56　採血又は輸血用器具
管理医療機器　　血液ガス検体採取用注射筒　（JMDNコード：16785000）

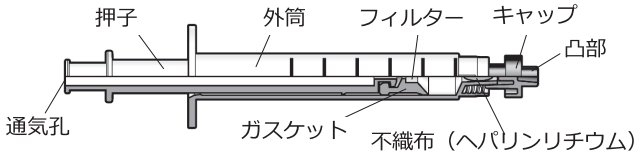
プレザパックⅡ

再使用禁止

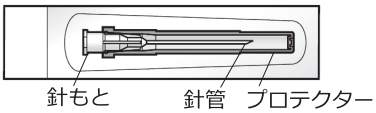
【警　告】
＜使用方法＞
透析回路等の陰圧回路等から採血する場合は、押子を外筒先端まで押し込んだ後、押子後端の通気孔をキャップ凸部で密封するか（図3又は図6）、指でふさぎ（図4又は図7）、押子をゆっくり引いて吸引採血すること。［血液に空気が混入する可能性がある。］

【禁忌・禁止】
＜使用方法＞
1. 再使用禁止、再滅菌禁止
2. 本品を使用して採取した血液を人体に戻さないこと。［採取した血液の安全性が確保できていないため。］
3. 注射に使用しないこと。［ヘパリンリチウムが体内に入った場合の安全性が確保できていないため。］
4. 透析回路等の陰圧回路等から採血する場合は、一定の速度で引き続け、採血途中で止めないこと。［採血した血液が回路内に逆流する可能性がある。］

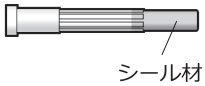
【形状・構造及び原理等】
＜構造図（代表図）＞
1. 採血用サンプラー



2. 採血針（ブリスター包装入り）



3. シール用プロテクター



※採血針、シール用プロテクターは、キット品種にのみ同梱

品種構成

ヘパリンリチウム	一般濃度ヘパリンタイプ	125単位
	低濃度ヘパリンタイプ	3単位／7単位
採血量	1mL／2.5mL	
採血針の表示長	32mm	
採血針の表示ゲージ	22G／23G	
採血針の刃形	ショートベベル（S.B.）	

※当該製品の品種は、外箱に記載

血液・体液に接触する部分の原材料一覧

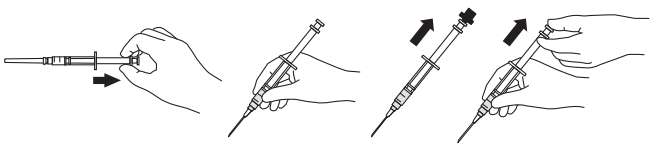
部品名	原材料
針管	ステンレス鋼
針もと	ポリプロピレン
潤滑剤	シリコーン油

＜原理＞
動脈圧により、血液が採血用サンプラー内に流入する際、サンプラー内の空気は、ガスケット内のフィルターを通じて通気孔から押し出される。採取した血液は、ヘパリンリチウムにより液体状態を保つことができる。

【使用目的又は効果】
＜使用目的＞
本品は、主として血液ガス測定用の動脈血を採取する器具である。
＜使用目的又は効果に関連する使用上の注意＞
注射に使用しないこと。

【使用方法等】
動脈穿刺で採血する場合
1. 採血用サンプラー先端のキャップを外し、採血針を取り付ける。
2. 押子を外筒先端まで押し込む。
3. 以下の手順により採血する。
   動脈圧による採血
   ガスケットの先端を必要採血量の目盛に合わせ（図1）、採血針のプロテクターをまっすぐ引いて外す。採血針を動脈に穿刺し、フィルターに血液がしみ込むまで採血する（図2）。
   血液が動脈圧により流入し、採血用サンプラー内の空気はフィルターを通じて通気孔から押し出される。
   吸引による採血
   採血針のプロテクターをまっすぐ引いて外す。採血針を動脈に穿刺し、押子後端の通気孔をキャップ凸部で密封するか（図3）、指でふさぎ（図4）、押子をゆっくり引いて採血する。
4. 採血終了後、動脈から採血針を抜き、止血する。シール用プロテクターが同梱されている場合は、採血針にシール用プロテクターを被せ、針先を密封する。同梱されていない場合は、採血針を外し、キャップを被せる。
5. 採血用サンプラーを両手掌間でキリもみ状に十分に回転させ（約50回）、血液とヘパリンリチウムをよく混和する。

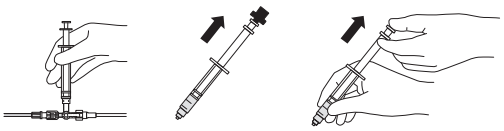
図１　図２　図３　図４



動脈ラインから採血する場合

1. 採血用サンプラー先端のキャップを取り外す。
2. 押子を外筒先端まで押し込んだ後、採血用サンプラーを動脈ラインに接続する（図5）。
3. 押子後端の通気孔をキャップ凸部で密封するか（図6）、指でふさぎ（図7）、押子をゆっくり引いて採血する。
4. 採血終了後、採血用サンプラーを傾けてフィルターに血液をしみ込ませてから取り外し、先端にキャップを被せる。
5. 直ちに、採血用サンプラーを両手掌間でキリもみ状に十分に回転させ（約50回）、血液とヘパリンリチウムをよく混和する。

図5　図6　図7



＜使用方法等に関連する使用上の注意＞

1. Ca^{2+}を測定する場合は、低濃度ヘパリンタイプを使用し、定められた採血量を採血すること。［一般濃度ヘパリンタイプを使用するとCa^{2+}が低値になる。］
2. 採血針や三方活栓、カテーテル等を介して採血用サンプラーが血管に接続された状態で押子を押し込まないこと。［採取した血液が血管内へ逆流する可能性や、空気が混入する可能性がある。］
3. 三方活栓やカテーテルから採血する場合は、採血用サンプラーを、ロック対応用コネクターと確実に接続すること。
4. 採血した血液はすみやかに測定に使用すること。［採血用サンプラーはガス透過性があるため、採血後長時間放置すると血液ガス測定値に影響を及ぼす可能性がある。］
5. 採血針プロテクターを外す際は、針先がプロテクターに触れないように注意すること。［刃先が変形し、切れ味が悪くなる可能性がある。］
6. 動脈圧により採血する場合は、水平面に対し45°～90°の角度で採血針を動脈に穿刺すること。[採血時の外筒の角度が、45°～90°以外の角度であると、採血用サンプラー内の空気が押し出される前にフィルターに血液が接触し、規定量を採血できない可能性がある。]
7. フィルターに血液がしみ込んでいない状態で動脈及び動脈ラインから採血針及び採血用サンプラーを抜かないこと。［針先又は外筒先端から血液が漏れる可能性がある。］
8. 採血後は、針先又は外筒の先端を密封すること。［血液ガス測定値に影響を及ぼす可能性がある。］
9. 採血後、直ちに血液とヘパリンリチウムを十分に混和すること。［採血後、混和するまでの放置時間が長い、及び混和が不十分な場合、血液凝固塊が発生し、分析装置を詰まらせる可能性がある。］

【使用上の注意】

＜重要な基本的注意＞

1. 針部に直接手を触れないこと。［針刺し、感染の可能性がある。］
2. 本品に過剰な衝撃や負荷を加えないこと。［採血針等が破損する可能性がある。］
3. 採血用サンプラーから分析装置に血液を注入する際は、血液凝固塊が分析装置内に注入されないよう注意すること。［血液凝固塊が分析装置を詰まらせる可能性がある。］
4. やむを得ず付属の採血針以外の採血針を使用する場合は、品種構成に記載されている採血針の表示長、表示ゲージ、刃形のテルモ注射針（医療機器認証番号:15200BZZ01381000）を使用すること。［シール用プロテクターが正しく装着できないため。］
5. シール用プロテクターは、針刺しを防止するため保護具等を使用するか、手で持たずに台等に置いて、採血針にまっすぐに被せること。［プロテクターを傾けて被せると、採血針がシール用プロテクターを突き抜ける可能性がある。］
6. シール用プロテクターを被せる際に異常な抵抗を感じた場合は、無理に押し込まず、シール用プロテクターを廃棄ボックス等へ安全に廃棄し、採血針を外し先端にキャップを被せること。［針先がシール用プロテクターを突き抜ける可能性がある。］
7. シール用プロテクターは、奥までしっかり被せること。［シール用プロテクターが外れ、針刺しが起きる可能性がある。］
8. 採血後、採血用サンプラーに混入した空気を抜く際は、血液飛散と針刺しに注意すること。

【保管方法及び有効期間等】

＜保管方法＞

水ぬれに注意し、直射日光及び高温多湿を避けて保管すること。

＜有効期間＞

使用期限は外箱に記載（自己認証による）

【製造販売業者及び製造業者の氏名又は名称等】

製造販売業者：**テルモ株式会社**

電 話 番 号：0120-12-8195 テルモ・コールセンター